

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (紀要論文) 看護師養成施設における看護教員の負担感について-対人関係の構築を苦手とする学生に焦点をあてて-	単著	2020年3月	山口県立大学学術情報 第13号 p37-47	本研究は質問紙を用いて、対人関係の構築を苦手とする学生（以下、対人困難学生と示す）に起因する看護教員の負担感の関連要因を明らかにした。結果として、①看護教員の93.2%は対人困難学生の教育を経験しており、うち96%の対人困難学生は障害診断を受けていなかった。②看護教員の精神的負担感を従属変数に、各要因を独立変数に重回帰分析を行った結果、「臨地実習(β.357)」「技術テスト(β.269)」「保護者の情緒不安定(β.245)」であった(調整済みR <sup>2</sup> .653)。対人的な内容指導の困難感が示された。
2 (発表) 発達障害傾向のある看護学生に望まれるマナーについて 一次的社会化の視点を中心として	単独	2024年11月	第59回発達障害学医学会学術集会	看護教員が看護学生に必須ととらえる、一次的社会化のマナーを明らかにした。対象は、2024年A県高等看護学校教務主任協議会の看護教員教育力up研修と2024年度B県における看護教員中央研修参加した看護教員169名中、研究の趣旨に賛同を得た90名(回答率53.8%)。○看護師養成に携わる看護教員が、一次的社会化の必須と捉えた項目は、「嘘をつかない」「約束や期限を守る」などの誠実性と挨拶・謝罪・感謝を示す項目であった。
3 (発表) 看護学生に必要な就労スキルの検討—一次的社会化を視野に加えて	単独	2023年11月	第58回発達障害学学術集会	看護教員は、看護学生の就労スキル(社会人基礎力)と一次的社会化(社会の基本的なルール)を必須ととらえているかを明らかにした。対象は2023年度A県看護教員教育力up研修において研究に賛同を得た68名 ○一次的社会化を含む就労スキルで必要と思う項目は、「嘘をつかない」「適切な挨拶」「約束や期限を守る」等一次的社会化項目が上位。 ○看護師として「思考や観察」「看護技術」は項目のベスト20に入らなかった。
4 (発表) 新人教育における新人看護師と先輩看護師の困難感の違い—社会面と業務面に焦点をあてて	共著	2022年11月	第57回発達障害学学術集会	業務面と社会面の新人の困難感項目を新人看護師と先輩看護師と比較検討した。対象は、地方中核病院に勤務する看護師57名である。結果は、○新人看護師が感じる困難は1)報告・申し送り、2)重症患者の対応、3)急変対応の3つが有意に高かった。○先輩看護師が感じる困難は1)感謝・お礼、2)課題の提出の仕方、3)指導や注意を受けた後の反応、4)約束を守るの4つが有意に高かった。
5 (発表) 就労スキルを視点とした看護学実習困難感の検討	単独	2020年8月	第55回発達障害学学術集会	実習指導者がとらえる実習困難感を就労5スキル(職場態度、予定管理、ストレス管理、体調管理、看護的思考)視点で検討。結果として、1. 実習指導者が捉えた4年間の実習困難状況エピソード(168)はコード数順に、「看護過程が不適切」「患者との関係が不適切」「学生の行動傾向」「実習態度が不適切」に分類された。 2. 就労スキルを視点とした実習困難状況の分類では、「職場態度」が重要視された。